



ゆしま たけはる
油嶋 武晴 社長

北九州市小倉北区出身。1956年11月5日生まれの68歳。北九州工業高等専門学校化学工学科卒。77年(株)新日本製鉄化学工業(株)（現日鉄ケミカル&マテリアル(株)）入社。91年戸畑製造所生産技術部課長代理、05年スチレン樹脂部長、11年参与光学ディスプレイ材料事業部長、13年新ケミカル商事(株)取締役、18年常務取締役、19年取締役副社長を経て20年から現職。趣味は山登り

設立20周年、 2030年度グループ

合、設立したのが当社です。前身時代から取引のある企業との関係をより強化するほか、経営層をはじめ社員も福岡県出身者が多いため、北九州で事業を広げたいという強い思いがありました。もう一つはアジアへのアクセスが良いことです。現在、上海、香港、台湾、シンガポールに拠点を構えています。人口減少などの影響で扱っている化学品や樹脂などの国内需要が低くなる中で、海外需要をさらに拡大するのに海運、空輸の利便性が高い場所と判断したためです。

また、昨年8月に北九州本社を小倉駅前の複合施設「セントシティ」に移転しました。事務所は従来の約2倍となる800㎡を確保し、全面ガラス張りです。フリーア、パウダールームのほか、取引先を招いた交流会の会場にも利用できるスペースも設けました。また駅近の商業施設に入居することで、社員の満足度向上や現地雇用、発信力強化にもつなげる狙いがあります。

— 各本社の役割分担は。
油嶋 東京本社が関西地方から東側エリアを統括しており、顧客数や取り扱う情報量が多い重要な営業拠点です。北九州本社は総務、経理財務グループ、管理部やDX推進室などのバックオフィスを備えているほか、中国、四国地方から九州全域を営業網としています。八幡や大分には製鉄所や化学メーカーが多いのですが、需要を掴みきれ



20周年記念式典でSDGs活動の表彰を受ける社員

— 20周年の記念事業は実施しますか。
油嶋 8月2日に東京本社で記念式典を開催しました。当日は関東地区のグループ会社を含めた社員約130人が東京本社に集まり、社史を振り返りつつ、将来を見据えて新中長期計画の説明やSDGs、働き方改革、CSR活動の発表、永年勤続表彰を行いました。式典の様子は全国の拠点と映像でつなぎ、喜びを共有しました。10月27日には北九州ソレイユホールで九州交響楽団による20周年記念コンサートを開催する予定です。

新中長期計画が始動 売上高1500億円目指す

新ケミカル商事(株)

北九州本社拡大し新規顧客開拓へ

— 8月で設立20周年を迎えました。

油嶋 当社は2004年に新日鐵化学(現日鉄ケミカル&マテリアル(株))の商事子会社として誕生しました。06年には鉄鋼や化学品などの製造会社が商事部門を独立させる時流から、日本製鉄グループのセメント、コークスなどの請負を行う日鉄ケミカル&マテリアル(株)が10%、輸送事業を手掛ける日豊ホールディングス(株)（北九州市小倉北区西港町、岩谷悟郎社長）が90%の主要株主となっています。役員は新日鐵化学などの日本製鉄グループ出身者が多いです。

— 事業内容についてお聞きします。

油嶋 鉄鋼を製造する際に発生する副産物である化学品や肥料(硫酸)、コークスなどを販売する事業を主体に、この20年で積極的な事業譲渡やM&Aで事業領域を拡大しました。取り扱う主な商材は芳香族系化学品、コークス等の炭素材料製品、高炉セメントなどの建設材料、スチレン系樹脂製品、肥料など農業製品までに増えています。このように多様な商材を扱い、取引先もさまざまな業種に広がったことにより、

(取材・岸田尚大)



2023年8月に移転した北九州本社。事務所面積は約800㎡

売上高は初年度の約250億円から約1千億円、グループ企業8社となりました。

— 18年には北九州本社を新設し、東京本社との2本社制を導入しました。

油嶋 新日鐵化学の戸畑製造所の製品を扱う北九州創立の横尾化学産業(株)と新日鐵化学の商事部門である新日化興産(株)が統

M&A、設備投資を積極推進

―4月から中長期計画「NCT／ムーニンショット計画」が始まりました。

油嶋 「前人未踏で非常に困難だが、達成できれば大きなインパクトをもたらし、イノベーションを生む壮大な目標」として2050年度を最終目標に設定しました。ただ、最終年度が26年後になるため、中間目標を2030年に設定し、30年度には売上高1500億円、ROSは3%以上を目指します。化学品、製鉄関連、樹脂、建材、アグリの5つの主要事業があるため、どこか1つの事業が低調でもほかで補い、安定した収益を生み出せる点を強みに目標達成したいですね。

さらに社員の生産性向上や利益率の改善で財務体質を強化するほか、日本製鉄グループとの関係強化でコアコンピタンスの確立、M&Aによる拡大も計画しています。後継者不足などに悩む事業者で、当社の5つの主要事業と相乗効果をもたらす企業があれば積極的に検討します。



NCTフロンティア志和工場

そのほか、メーカー機能を強化する一環で、設備投資も検討しています。グループ会社で園芸用培土などを製造する昭和培土(株)(宮城県)の本社工場は老朽化が進んでおり、順次更新を計画しています。さらにシンナー系溶剤の再生を行っている広島市のNCTフロンティア(株)(染井浩一社長)の志和工場(広島県東広島市)の拡張も視野に入れています。建物の老朽化のほか、産業廃棄物の削減や再生品の需要が高いためです。

―拠点拡大の計画については。
油嶋 北海道や愛知県、大分県など14拠点あり、国内はある

それに加えて基幹システムの見直しや採用、時代に合った働き方、制度の策定、ホームページ刷新や広報誌リニューアルなどの広報戦略強化などの取り組みを進めています。

―24年3月期決算についてお聞きます。

油嶋 グループ売上高は前期比4.3%増の984億円で過去最高を更新、経常利益は微減でした。セメント業界で原材料費や物流コストの高騰に伴う価格転嫁が進んだ点がプラスに働いた建材セグメントの好調が増収の大きな要因です。ただ、一昨年に比べて肥料価格が暴落した影響で売上、利益ともに苦戦を強いられ、当初計画していた1千億円を超えられなかったのは残念でした。

25年3月期のグループ売上高は1050億円を見込んでいます。肥料価格は適正価格に戻ってきているため、昨期ほど大きくマイナスに作用しないと予想しています。

―売上高の構成比は。

油嶋 建材が約350億円、次いで化学品が200億円、樹脂が190億円、製鉄関連が150億円、農業分野が70億円です。北海道など農業が盛んな地域では窒素系の肥料が不足しており、現在は海外からの輸入に頼っています。その点当社が扱う肥料の硫安(窒素肥料)などの需要が見込めるため、農業分野の売上比率向上へ国内市場開拓をさらに強化したいですね。

―農業分野強化の具体的な取り組みを教えてください。

油嶋 今年4月にアグリ事業セグメント再編の一環で、グループ会社の昭光通商アグリ(株)(東京都)とみらいアグリ(株)(福岡市)を統合し、NCTアグリ(株)(東京都、長谷川恵章社長)を設立しました。これまで鉄鋼の副産物で窒素系肥料の硫安をJA全農へ販売してきました。それに加



NCTアグリ長谷川恵章社長（左）と衛藤雅俊取締役企画部長

え、NCTアグリで製造販売するアミノ酸系肥料の拡販を推進しています。また、鉄鋼スラグや汚泥などの未利用資源を肥料へ加工製造する事業を拡大していきたいと考えています。新しい取り組みとして、米を栽培する際に出る、処分に困っていたもみ殻が製鉄の際に保温剤として利用できるため、「鉄鋼から農業へ(硫安)、農業から鉄鋼へ(もみ殻)」の仕組みを通して循環型社会の構築に貢献したいですね。

程度カバーできていると感じています。海外は中国やシンガポールなど4拠点構えており、外需をより強化するため台湾での販売先拡大、インドへの進出を検討中で、現地調査に乗り出しているところです。

―そうすると、人材確保も必要になりますね。

油嶋 そうですね。今年4月に**地元篠崎中から北九州高専へ、**ついてお聞きします。北九州市小倉北区のご出身ですね。

油嶋 篠崎中学校、北九州工業高等専門学校を卒業しました。

学生時代は山岳部に所属し、九重山や祖母山など九州の山は一通り登頂しました。現在は険しい山には登れていませんが、家から近い高尾山なら登っています。

―卒業後のご職歴を教えてください。

油嶋 1977年に新日本製鉄化学工業(現日鉄ケミカル&マテリアル(株))に入社し、戸畑製造所で17年間勤務しました。94年に東京に移り研究所、営業

当社初の新卒社員3人が入社しました。これまでは既存のビジネスを拡大するために即戦力の採用がメインでしたが、主要5部門の事業基盤が構築されたため、新卒人材の受け入れ態勢が整いました。今後は九州出身者を中心に毎年3〜5人の採用を計画し、将来を担う人材確保を進めたいですね。

20年から新ケミカル商事社長 職、光学ディスプレイ事業部長を経験し、2013年に新ケミカル商事の取締役、18年に常務、19年副社長を経て20年から現職です。

―普段は東京本社に常駐とのことですが、北九州に戻ってきた際には懐かしいという気持ちになりますか。

油嶋 戸畑に勤務していたころの同僚とは今でも食事に行きます。ただ先日、昔よく通っていた魚町のおでん屋さんが火事であってしまっただのは残念でした。

―地域貢献活動にも力を入れていますよね。

新ケミカル商事(株)	
【本社】〒802-0002 北九州市小倉北区京町3-1-1	
【TEL】093-288-5300	【FAX】093-288-5310
【設立】2004(平成16)年8月	【資本金】4億円
【銀行】三井住友本店営業部	福岡北九州営業部 三菱UFJ北九州
【役員】(会)上田哲則(社)油嶋武晴(代副)上田幸二郎(常)正山堯 前野幸彦 金崎研一(取)山口康博 岩谷悟郎(監)高木史郎	
【事業】化学品、製鉄関連、樹脂、建材、アグリの5つの分野を取り扱う商社	
【仕入先】日本製鉄 日鉄ケミカル&マテリアル 三菱ガス化学トレーディング	
【販売先】日本製鉄 日鉄ケミカル&マテリアル 全国農業協同組合連合会	
【出先】(東京本社)東京都千代田区(オフィス)東京、札幌、名古屋、大阪、君津、北九州、東海、大分、室蘭、広島	
【関連会社】日豊ホールディングス(株)<90%> 日鉄ケミカル&マテリアル(株)<10%>	
【業績】	
2022年3月	売上高(千円) 50,802,000 経常利益(千円) 990,000
2023年3月	59,527,000 971,000
2024年3月	45,466,000 522,000

※弊誌別冊「福岡の会社情報」データベースより